

お蔭様で15周年

理事長 甲谷勝人



ピープルズ・ホープ・ジャパンは1997年、米国Project HOPE傘下の日本組織「プロジェクトHOPE ジャパン」として発足しました。2006年にはProject HOPEとの連携関係を保ちつつ独立。「ピープルズ・ホープ・ジャパン

(PHJ)」として独自の活動を展開してまいりました。そして、発足以来皆様の絶大なご支援のお蔭で、私も今年15周年を迎えることになりました。長年にわたる皆様の温かいご支援に心より厚く御礼申し上げます。

この間、1999年にNPO法人の認定を受け、2001年にはNPO支援税制適用の第一号として「認定NPO法人」となり、財政基盤の強化につなげることが可能となりました。現在個人会員1750名、法人会員417社、年間予算規模約1億5千万円、主として、タイ、インドネシア、カンボジア、ベトナムにおいて「保健・医療環境の向上に向けて、教育を中心とした自立支援」を行っております。具体的には国連の「ミレニアム開発目標(MDG's)」のうち「乳幼児死亡率の削減」、「妊産婦の健康改善」、「HIV/AIDS、マラリア等の蔓延防止」にフォーカスし、各地で草の根的活動を進め目覚ましい実績をあげてまいりました。

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」は、発足以来開発途上国への支援を主体としてきたPHJの活動に大きな転機をもたらすこととなりました。

災害支援については、これまでも2000年のトルコ西部大地震、2001年のアメリカ同時多発テロ、2005年のスマトラ大地震・津波等々、多くの海外の災害に対して支援を続けてまいりましたが、日本国内に対しては、PHJにとっては今回初めて、本格的かつ大規模な災害支援活動を展開することとなりました。

今回の活動は、PHJ発足以来理事として強力なご支援をいただいている「全日本病院協会(全日病)」様が、震災発生直後から被災地に向けてはじめられた医

療チームの派遣を全面的にサポートするための募金活動を展開いたしました。会員の皆様及び新たにご賛同をいただいた方々から多くの物品も含めて、多額のご支援をいただき、全日病様の活動のお役に立てた事、心より感謝しております。なお今後は、被災地域の医療機関の復旧・再建が大きな課題となりますが、私共としても、引き続き全日病様と連携してお手伝いを続けたいと考えています。

今回の災害に際し、PHJ発足以来支援を続けてきた開発途上国の方達から心のコもったお見舞いと励ましのメッセージや、苦しい家計の中からの支援金を届けていただき、大いに感激するとともに、このような方達と深い絆で結ばれている事を改めて認識した次第です。また、今回多くの新しいドナーの企業や個人の方達が支援に加わって下さいましたが、寄付先としての選定理由として、「支援目的が明確」、「活動の報告が確実」「経費率が低い」があげられておりました。

PHJはこれからも皆様のご期待に添うべく、現地で精力的に活動する多くのボランティアを含む若いスタッフのエネルギーと、後方でバックアップするアクティブシニアの叡知を融合して、ミッションの達成に邁進いたします。

今後ともどうぞ変わらぬご支援をお願いいたします。有難うございました。



◀東日本大震災の被災者のためにタイから手編みの帽子、マフラーが送られてきました



▶カンボジア関係者からの東日本大震災支援金と手紙を持つルセイドイ学校の校長先生

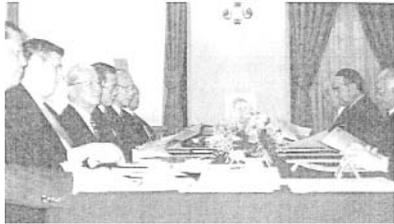
15年間の歩み(概要)

| 事業年度(期間) | 組織の沿革 | 主な事業 | 収入 支出(万円) |
|-------------------------|---|---|------------------|
| 1997 (1997.1-12) | 「任意団体」プロジェクト HOPE ジャパンとして活動開始(1997.1.8) HOPE ニュース発刊 ホームページ開設 | ボスニアに「超音波診断装置」寄贈 | 8,884 8,330 |
| 1998 (1998-1-12) | タイ事務所開設 経団連「1%クラブ寄付対象団体」に 指名される(1998.4.1) | タイ「HOPE パートナー」教育開始 小児先天性心臓病手術支援開始 | 11,087 10,078 |
| 1999 (1999.1-7) | インドネシア事務所開設 「特定非営利活動法人」認証 (1999.7.16) | インドネシア「メディカルフォローアップ教育」 開始 ボスニア支援開始 | 4,639 3,533 |
| 2000 (1999.8-2000.6) | | トルコ・台湾地震・災害支援 インドネシア「口腔衛生教育」開始 タイ「HIV/AIDS 予防教育」開始 | 11,038 9,357 |
| 2001 (2000.7-2001.6) | 武蔵野市民と連携活動(ルーマニア・ ブラショフ支援) | タイ、インドネシア、ボスニア支援継続 ルーマニア支援開始 | 14,384 11,929 |
| 2002 (2001.7-2002.6) | 認定特定非営利活動法人第一号に認 定(2001.12.6) | タイ、インドネシア、ボスニア、ルーマニア支援 継続 インド地震支援、米テロ被災者支援 | 13,948 12,381 |
| 2003 (2002.7-2003.6) | カンボジア事務所開設 | タイ、インドネシア支援継続 カンボジア「母子健康支援」開始 タイ「子宮頸がん予防教育」開始 | 11,384 8,668 |
| 2004 (2003.7-2004.6) | | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 カンボジア「医師の日本研修」支援 インドネシア「母子健康」支援開始 アフガニスタン栄養支援 | 18,098 13,166 |
| 2005 (2004.7-2005.6) | | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 スマトラ大地震災害支援 | 14,598 9,214 |
| 2006 (2005.7-2006.6) | 「ピープルズ・ホープ・ジャパン」と して独立 | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 パキスタン、ジャワ地震災害支援 | 16,603 11,067 |
| 2007 (2006.7-2007.6) | | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 イラク小児心臓手術支援 | 14,264 9,188 |
| 2008 (2007.7-2008.6) | | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 ミャンマー・サイクロン災害、中国・四川大地震 災害支援 | 13,953 8,869 |
| 2009 (2008.7-2009.6) | | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 ベトナム「HIV/AIDS 予防教育」2010年度まで | 18,046 10,622 |
| 2010 (2009.7-2010.6) | | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 スタディツアー開始 タイ「障がい児」支援募金 2011年度まで カンボジア「安全なお産」支援募金 2012年度まで | 16,375 11,644 |
| 2011 (2010.7-2011.6) | 東日本大震災支援：全日本病院協会 と提携 東京国税局から「指定寄付」認定団 体第1号指名(2011.05.10) | タイ、インドネシア、カンボジア支援継続 ベトナム「乳がん自己検診」開始 タイ「子宮頸がん・乳がん検診推進」開始 埼玉大学スタディツアー正課授業化 東日本大震災緊急支援 | 23,279 16,414 |
| 2012 (2011.7-2012.6) | | タイ、インドネシア、カンボジア、ベトナム支援 継続 東日本大震災復興支援継続 カンボジア・タイ洪水募金開始 | 28,995 23,790 |

写真で振り返る15年 (1997 — 2006)

PHJ 発足

プロジェクトHOPEジャパンが発足 (1997年2月)



1997年 Project HOPEの日本支部として発足。アジアの途上国の保健・医療環境の向上を使命とする

ボスニア・ヘルツェゴビナ



1998 - 2001 サラエボ病院支援
超音波画像診断教育、歯科医療教育

タイ



1998年 タイ事務所をチェンマイに設立、大谷所長就任



1998年 障がい児の支援を里親 (HOPE パートナー) 制度のもと展開 (現在継続中)



1999年 HIV/AIDS 予防教育 ピアリーダー育成を通して大学、高校・中学生へ展開 (現在継続中)



2000年 小児先天性心臓病手術の支援と医師・医療スタッフの研修支援 (現在継続中)

インドネシア



1999年 インドネシア事務所をデンパサールに設立
伊藤所長就任
2004年 事務所をジャカルタに移転



口腔衛生教育を小学生を対象に実施 (現在は歯科医の教育を支援)



2004年 母子健康プログラム開始 (現在継続中)

ルーマニア



1999 - 2001 ブラショフ市病院支援 超音波診断装置の寄贈と研修
2001 武蔵野市民団体と協同で病院向け赤ちゃんのオムツ洗濯機を寄贈
2000-2006 病院医療教育 (産婦人科、小児科)

カンボジア



2001年 カンボジアの現地調査



2003年 カンボジア事務所をコンポントムに設立、母子保健改善事業開始 (現在継続中)
大村所長就任



写真で振り返る15年 (2007 - 2011)

タイ



2008年 ジラナン タイ事務所所長就任



2001年 子宮頸がん予防教育開始
2010年からは寄贈されたミニバスを利用して
乳がん検診も含め展開 (現在継続中)



2009年 HOPE パートナー事業の一部として
ラーニングセンターの建設支援



2009年 タイの経験を活かしベトナムに
HIV・AIDS 予防教育、乳がん検診展開

インドネシア



分娩設備を備えた診療所の建設支援 2009 -
2011年までに10箇所建設



母子保健健康改善の一部として栄養教育を推進
(現在継続中)



超音波・CT画像診断技術の教育・研修 (現在
継続中)



2009年からバリ州東バリ地区での鳥インフル
エンザ・狂犬病などの感染症予防教育 (現在
継続中)

カンボジア



2006年11月 カンボジア中田所長就任
2010年安全なお産募金開始



2009年 カンボジア伝統楽器の寄贈



助産師トレーニング (現在継続中)



2011年9月 久米所長代行就任
保健センターでの活動

写真で振り返る15年(1997—2011)(災害支援・各種イベント)

災害支援

2004年 スマトラ沖地震支援—インドネシア・アチエ



ラムレ分娩所の復旧



最初の出産

2011年 東日本大震災緊急支援・復興支援



医療救護班の派遣



電子カルテの導入

各種イベント



1998年からグローバルフェスタ・武蔵野国際交流祭りに参加



2009年からスタディツアーを実施



2010年、2011年 Stand-Up Take Actionを本部、タイ、カンボジアで実施



1998年からカレンダー募金開始
2010年からアジアのおはなしカレンダー作成

五月女理事



Vol.5 恩義の輪廻—日本人の知らない素晴らしき日本

「灯台もと暗し」と言う格言があります。日本人では外国を旅し、外国を語る人は沢山見受けられますが、はたして日本のことをよく知り語れる人はどのくらい居るのでしょうか。

3月11日の東日本大震災は未曾有の悲惨な出来事でした。人命の喪失、経済の基盤の破壊はもとより、日本人の心に深い傷跡を残しました。

しかしその被災者救援のため、世界中の国々から多大な支援物資・義捐金が送られてきました。大震災から5か月を経過した段階で、外国政府からの支援は126カ国に上り、民間からの義捐金・支援物資も約180カ国から贈られ、その総額は800億円を超え、災害義捐金としては世界史上最高額でした。特に米国、台湾からはそれぞれ200億円を超える大きなものでした。そして紛争で苦しむスーダン、アフガニスタン等も含めアジア・アフリカの貧しい人々も自分の日給分に当たる50～100円位の金額を集めて数百万円もの送金をしてくれました。

では、なぜこのような多額の支援を日本は受けることが出来たのでしょうか。勿論これまでの長年に亘る日本の支援への恩返し要素もあるでしょう。しかしそれだけでは説明がつかいません。途上国以外の国からも多数の支援があったからです。



五月女光弘(さおとめみつひろ)

外務省初代 NGO 担当大使、元特命全権大使、早稲田大・聖心女子大等兼任講師、文藝春秋ベストエッセイストの一人、著書多数、PHJ 理事等。

実は、日本は世界でも好感を持たれ、愛されている国の一つなのです。最近の自虐的な傾向にある日本人には気が付きにくいことかもしれません。



夕方の松島

世界の中立的な調査機関が2010年に各国で行った結果をお見せしましょう。例えば、トルコでの調査です。好きな国ランキング(1000人調査)、1位:日本249、2位:グルジア117、3位:イタリア109、4位:ドイツ92、5位:パレスチナ89、6位:米国85、等でした。台湾での調査では、1位:日本52%、2位:米国:8%、3位:スイス:3%等。

また厳しい評価をする米国はどうだったでしょうか(ギャラップ調査)。1位:カナダ90%、2位:英国87%、3位:ドイツ80%、4位:日本77%、5位:イスラエル67%、…でした。米国にとってカナダと英国は身内の国で、実際の外国としては、ドイツと日本が最上位でした。日本を好きな国トップ3に入れる国は、カンボジア、モンゴル、ブータン、ネパール、タイ、パラオなど数え切れません。

これは、日本の文化、優れた工業製品、勤勉な国民性、治安の良さなどから好意を持ってくれる結果からかもしれません。しかし歴史を振り返りますと、我々の先達が世界の国々の為に尽してくれたことへの恩返しであった面もあるのです。日本人は自国に誇りを持ち、先輩たちの努力に感謝し、相互扶助の精神を忘れずに、諸外国と友好な関係を築きあげていきたいものです。

15周年座談会——PHJに期待する活動

2012年1月に創立15周年を迎えるPHJに期待する活動について、11月15日(火)午後6時から東京、武蔵境駅南口にある武蔵野プレースで座談会を開き、次の方々にご意見やご提案を頂きました。2時間にわたり熱心に話し合いが行われました。

栗田 充治氏：亜細亜大学・国際関係学部教授、日本ボランティア学習協会・副代表理事
武蔵野NPO ネット・理事長他
湾岸戦争を契機に国際ボランティア活動をはじめ、大学・武蔵野市での活動を積極的に行っておられる

森口美由紀氏：日本GE株式会社・コーポレート・コミュニケーション本部長
個人会員、法人会員の代表としてPHJ運営委員

天野 友香氏：一橋大学・国際社会学専攻 4年生、アメリカの移民・難民の研究からNPOの役割について関心をもち、2010年他団体のカンボジアのスタディツアーに参加し、現地の状況に強い印象をうけた。
2011年8月からカンボジアで活動しているPHJにインターンとして参加。

司会：木村敏雄：PHJ理事・代表
PHJスタッフ：石関正浩(プログラムGr) 矢崎祐子、南部道子(広報Gr)

木村代表よりPHJの設立の経緯、認定NPO法人第1号取得、カンボジア・インドネシア・タイでの保健・医療状況に基づき母子保健・感染症予防教育・障がい児の支援・子宮頸がん・乳がん検診推進などの活動を紹介しました。また2011年度は東日本大震災の災害支援として国内での活動を積極的に行ったことも説明。2012年1月に設立15周年を迎えるPHJのこれからについて、出席者の皆様のご意見をいただきたいと挨拶し、座談会を開始しました。

東日本大震災の災害支援について



栗田：PHJのこれまでの活動と異なる国内での支援活動を行ったとのことですが、具体的にはどのような活動だったのですか？

木村：当初はPHJ理事である全日本病院協会(全日病・2350民間病院から構成)と提携して、被災地への医療救護班の派遣費用を支援、事務用品、衛生用品、マフラー、夏物衣料等の配布、さらにPC、プリンターなど医療活動に必要な機器の寄贈を支援企業と連携して行いました。7月以降は石巻港湾病院へ復興のための什器類の寄贈を行い、さらに気仙沼市の医師会と提携し地域の医療機関の復興のための医療機器、什器類のニーズ調査を行い、寄贈の調整を実施中です。主な活動は東南アジアで展開していますが、2011、2012年度は東北支援も金額的には大きくなります。

栗田：災害支援の報告はどのように行っているのですか？私の関係しているNPOでは市役所会議室などを使って報告会を行いました。



木村：個人、法人会員にはホームページ、メールニュースで、運営委員会、理事会での報告とともにお知らせしています。また特に支援を頂いた法人会員各位には訪問して説明しています。一般の方にはホームページ上で情報公開しています。栗田先生のおっしゃる地域での報告会なども今後検討したいと思います。

活動地域・事業の選定について

木村：カンボジア、インドネシアでは母子保健改善が主な事業ですが、タイでも支援をしています。タイは中進国なのに何故支援するのかと疑問を持つ方もおられる一方で、日本企業の多くはカンボジアよりもタイを支援したいという状況です。今回の洪水についても、タイの惨状

は報道されているものの、カンボジアの被害についてはほとんど報道されていないことから、多くの人の関心がタイにあることを物語っていると思います。こうした状況をふまえて、PHJではタイの中でも貧しく、小児心臓病手術支援がなければ命をなくすような子どもたちを対象にした事業も行っています。

PHJスタッフ：PHJが活動しているコンポントム州を含むカンボジアの洪水の状況と5704戸に配布する衛生グッズの内容をホームページ、ブログで説明しました。PHJの募金目標250万円を達成するために、いろいろな方法を実行しています。



森口：カンボジアの洪水の状況については今知りました。

木村：PHJでも次の活動地域としてベトナム、ミャンマー、ラオスなどを検討しています。ベトナムではタイで成功したHIV/AIDS事業をホーチミン市で現地の医学・薬科大学と試みました。また現在テストケースとして乳がん触診推進プログラムを実行していますが、タイ同様本当に支援が必要なのかという声もあります。また人口、GDPなどから考えるとミャンマー、ラオスなどが支援先としてふさわしいのではと考えています。担当スタッフが出張した折にミャンマー、ラオスの調査もしたいと考えています。

栗田：亜細亜大学ボランティアセンターではミャンマーの留学生を通じて支援活動を始めました。3年くらい続きました。車いすやPCの寄贈、小学校、盲学校などの訪問・交流などをアレンジしました。その後は学校訪問などの活動が難しくなり、現在は中断しています。

木村：ミャンマーでは今年になって少し解放されてきたので、NPOの活動がしやすくなることを期待したいです。

PHJスタッフ：ミャンマーでも政府は保健分野で遅れていることを認識しており、この分野に限りNGO活動はウエルカムだと他のNGOから聞いています。



天野：ラオスではNGOはどう受け入れられているのでしょうか？

PHJ スタッフ：政府の縛りがあるので活動は限定されています。活動は監視とか役人が付いてくるとい状況だそうです。JICAのプロジェクトなどは実施されていますが、先住民問題などがからむ地域での活動は難しいようです。他の国に比べて人口が少ないことも、置き忘れられている理由かもしれません。

森口：PHJが、柱となる事業に自由に使える予算を安定的に確保することが必要ですね。カンボジアとインドネシアでは母子保健、タイではHIV/AIDS予防教育、子宮頸がん・乳がん検診推進、HOPEパートナー制度などの事業を行っていますが、個人、企業の立場からは柱となる事業が明確であるとサポートしやすいと思います。3か国以外の地域を選ぶのにも、どの事業を柱にしてゆくかが重要な要素となりますね。また、大口寄付の有無によって年間予算が左右されるのではなく、安定した寄付金収入で事業を拡大したいですね。

木村：PHJはProject HOPEから独立して東南アジアで事業をしています。Project HOPE自身はドナーの意向で世界中で糖尿病予防事業を行っています。PHJは母子保健という分野を重視して、ドナーの意向のみで事業が振られないことが大切です。カンボジア支援では外務省からの補助金は母子保健事業に向けられています。柱となる事業を拡大するには、支援企業だけでなく個人会員の拡大も必要と常に考えています。

天野：学生の意見としては、HIV・AIDS予防教育はわかりやすい、身近な問題と認識できます。しかし友人に母子保健改善事業を行っているNPOだと話しても、何をするとという反応でした。内容を説明すると重要なことは理解してもらえましたが。

木村：日本では保健・医療環境が進歩してきたので、母子保健と言ってもピンとこないというのはわかりますね。天野さんのような外部からの意見は貴重です。若い人たちの問題意識とPHJの活動の範囲が同じではないことを理解しておく必要があります。

PHJに期待する役割と活動

栗田：私からは二つお願いしたいことがあります。一つはPHJは武蔵野市に事務所を置く団体なので、日本の、武蔵野市の若者、将来のドナーになる子どもたちに、アジアの現実を知らせる役割を担ってほしいですね。例えば武蔵野市の土曜学校で小中学生にPHJの活動地域の子ども達の生活を話すなど、ビデオレターを交換するなどの企画を検討してください。

PHJ スタッフ：アジアのおはなしカレンダーで武蔵野市、活動地域の子ども達の絵を紹介していますが、それらを通じて交流を図ることもできますね。またもっと年齢の高い学生たちなどを対象にPHJの活動地域のスタディツアーを実施しています。PHJのPRだけでなく、現地の保健・医療状況や生活を知り、現地の人とコミュニケーションをしてそれを英語で報告するプレゼンテーションなどを通して参加者のコミュニケーション・スキルを向上させたり、国際理解を高める人材育成をもっと広げて



左から 森口さん、栗田さん、天野さん、木村さん

ゆきたいです。

木村：PHJが加入している武蔵野法人会では、来年3月武蔵野市の子どもに税金がなぜ徴収されて、どのように使われるかという話をする企画があります。地域の次世代ドナーたちに積極的に働きかける必要がありますね。また対象としては学生たちの年齢層のために、タイのAIDS予防教育の手法を大阪の看護協会で3回、JICA地球ひろばで1回紹介するセミナーを行っています。先生のおっしゃるようにもっと若い世代への働きかけをしてゆきたいです。

栗田：二つ目はPHJにはこの地域でのリーディングNPOとして活躍してほしいのです。市民セクターの声を代表する、社会的発言を期待しています。認定NPO第1号でもあり、他のNPOに運営知識と経験、例えば自治体との契約関係についてノウハウを提供して、武蔵野市の市民活動の活性化に貢献してほしいですね。日本のNPOは4万あるものの認定NPOは238しかないので、持てる力を分けてほしいです。

木村：PHJの理事で初代NGO大使の五月女氏の講演を武蔵野法人会でもお願いしたり、運営委員会でも講演をしていただく企画を持っています。PHJの活動をもっと地域にも向けてゆきたいと思います。

天野：多くの学生がボランティアやインターンとしてNPOで働きたいと思っています。PHJではかかわっている学生数が、他のNPOと比べて少ないです。学生ができる作業がいっぱいあるので、もっと活用したらよいと思います。

森口：個人会員はどういう方たちですか？年齢、性別など。

木村：設立母体の企業の社員が多いです。退職すると会員をやめる方も多く、どうやってそのギャップをうめてゆくか苦心しています。若い人たちにはブログや、フェイスブックなどにアクセスしてもらえるようにしています。また横河の福祉センターのネットワークでPHJの紹介をもらうなどいろいろな手段で会員を増やす努力をしたいと思います。

森口：先ほど天野さんから学生たちは母子保健について知らない何って、会員を増やすには、母子保健や災害支援など、中高年の女性で時間とお金のある世代を巻き込むような、イベント・活動を地域でもっと展開したらよいと思いました。

木村：今日はいろいろな立場、年齢の方から、貴重なご意見を頂き、これからのPHJの役割や活動内容の参考になります。本当にありがとうございました。

東日本大震災支援状況

東日本大震災発生から早くも10ヶ月が過ぎようとしています。被災地はまだ険しい復旧、復興の途上です。現在、PHJは全日本病院協会（全日病）と連携しながら、行政からの支援が薄い気仙沼の私立病院、クリニック、介護施設等の復興支援に取り組んでいます。



感謝状贈呈（2011年12月16日）
写真：左から PHJ 甲谷理事長、
エリクソン社 小笠原本部長、
気仙沼市医師会 大友会長、全日病
猪口常任理事

12月にはヨーロッパビジネス協会のご紹介でエリクソン社から282点の什器類の寄付をいただき、また災害支援金約1600万円で168アイテムの医療機器を全壊、半壊を含めた20施設に寄贈しました。この支援は



小松クリニックに搬入される什器
（2011年12月9日）

は気仙沼市医師会にニーズ調査をしていただき、要求があった什器、医療機器を選定したもので受け取った施設からは欲しかったものが入手できたと大変喜んでいただきました。今回納入した機器以外にも必要とされる医療機器があるのでこれからも出来る限り要望に応じていきたいと思っています。今後とも東日本大震災義援金への皆様のご支援をよろしく願います。

五月女理事の講演、 第44回運営委員会開催

12月15日（木）5:00-8:00pm 日本ヒューレット・パカード株式会社会議室をお借りしてPHJの運営委員会を開催しました。活動報告に先立ち外務省初代NGO大使、ザン



五月女理事の講演に聞き入る参加者

ビア・マラウイ特命全権大使などを歴任された五月女光弘PHJ理事から「国際貢献と恩義の輪廻」と題して1時間講演をしていただきました。東日本大震災で被害を受けた日本へ世界各国から災害支援としては最大の金額の支援と救助の手が差し伸べられたのは、日本がこれまで世界各国に支援・貢献をしてきたからで、助けは人のためならずを実感したこと。また中立の機関が行ったアンケートで、自分の国に次いで好きな国として日本を選ぶ人々が世界中にいることなど、勇気づけられるお話を聞くことができました。

一昨年からは運営委員会にはPHJの活動を知りたい会員や企業の方もオブザーバーとして出席されています。今回は東日本大震災支援でボランティアとしてPCのソフトウェアをインストールして下さった社員を含む日本HPの社員他合計70名の方が参加して下さい、五月女理事の講演、PHJの活動報告に熱心に聞き入っていました。

カンボジア・タイ洪水募金 —目標まであと一歩

2011年9月からタイ・カンボジアでは大雨による洪水で大きな被害を受けました。PHJでは10月25日にカンボジア・タイ洪水募金（目標額は250万円）を開始し、12月初めまでに目標90%を達成しました。



PHJタイ事務所はチェンマイ県で活動しており、洪水の被害はありませんでしたが、被災地向け衛生・保健環境面から簡易トイレ、T-シャツ、子供用おむつ、ミルクなどを配布しました。

PHJカンボジア事務所があるコンポントム州では支援地域のほとんどが大きな被害を受け、活動も舟を使って行う状況でした。風邪、インフルエンザ、マラリア、デング熱ほかの感染症、皮膚病などが発生しているため、石鹸、タオル、台所用洗剤、ゴミ袋、たわしなどを詰めた衛生キットを5704戸に配布しました。

募金活動の一端として、東京事務所では11月23日（水）チャリティーランチを開催し、12月16日（金）には報告会をJICA地球ひろばで開催。カンボジアから帰国したPHJスタッフがPHJの支援活動を紹介し、現地からスカイプで所長も参加しました。

カンボジア

「安全なお産」支援募金は終了いたしました

2010年2月にカンボジアの女性が安全なお産を経て健康な赤ちゃんを産めるよう支援する募金を始めました。妊婦への必需品キット、お産に必要な用品のキット各500セットを2011年4月までに配布しました。募金目標額の75万円を2011年10月末までに集めることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

各種イベントに参加

グローバルフェスタ JAPAN2011

10月1日、2日東京日比谷公園で開催されたイベントで、アジアのおはなしカレンダー、PHJの活動、スタディツアーの紹介を行いました。PHJのブースには100人以上のカレンダー募金協力者と300人が展示を見に来てくださいました。



武蔵野国際交流まつり

11月20日、東京武蔵野のスイングホールで開催されたお祭りでは、アジアのおはなしカレンダー、カンボジア・タイ洪水募金、スタディツアーを紹介しました。おとぎ話を聞いてから絵を描くお絵かき大会には子供たちが熱心に参加してくれました。

